

今後の図書館サービスのあり方に係る委員意見

(令和3年度第1回広島市立図書館協議会（書面開催）会議要旨抜粋)

委員名	意見等
本家委員	<p>「市民が情報を求める際に利用できる」サービスでは、ネット社会が進む中で図書館の価値が下がってしまうことが予想される。新しい時代においては、マスコミや行政、企業、文化人、書店等と連携し、新たな市民の興味や関心を作り出し発信していくことが重要ではないか。</p> <p>本をどれだけ利用してもらったかという指標だけでなく、図書館という場所で、どれだけ人の心を動かしたかということも指標になる。また、興味等を通じて、人がふれ合う・出会うということも指標になると考える。</p>
吉田委員	<p>多くを盛り込みすぎて主旨がわかりにくいので、「基本的な考え方」2と3の説明の文言をわかりやすくまとめ直してほしい。</p> <p>予約図書を受取場所を増やしてほしい。</p> <p>現在実施している図書館サービスを市の広報などで随時紹介してほしい。</p>
上田委員	<p>広島の文学歴史が海外のお客様、修学旅行の見学に使ってもらえるよう考えてほしい。</p> <p>カフェ、会議室、講演会場、書店、食事のできるフリースペースなどあればよい。</p> <p>自習スペースは、現在の別室ではなく図書館内に置いてほしい。</p> <p>図書館内に仕切りを設置して読み聞かせスペースを設置。</p> <p>小さい時から本の貸出ができるように、本を入れる子ども用ワゴンと、子ども用の低いカウンターを設置してほしい。</p> <p>図書館の別フロアに書店を設置してほしい。</p> <p>図書館員と書店員が刺激し合えるよう、イベントを同時進行させながら棲み分けをしてほしい。</p> <p>書店と連携して市内書店の支店など窓口を設け、本の受け取り、返却をしてはどうか。書店としても来客数が増えるメリットもある。(尾道市立図書館、三原市立図書館など、啓文社と連携していることを参考にしてほしい。)</p>
矢野委員	<p>老朽化からくる課題については、今後の建替時に改善されることを期待します。書庫や作業スペースなど、長期視点からみて十分な整備をして現在の課題が最大限改善される方向で検討していただきたい。併せて、利用者のための快適な空間づくりも他館の取り組みを参考に検討していただきたい。</p> <p>取り組んでいることも図書館ならではの魅力も利用者に伝わっていないことが多々あるように思う。どうやってそれが届くかも重点事項として検討の必要があるように思う。</p>

庄委員	<p>今年度も様々な取り組みが計画されており、サービスのより一層の充実に向けて力を発揮していただきたい。</p> <p>社会の変化、また人の考え方の変化に合わせ、図書館も変化してほしい。</p> <p>来館型、発信型のサービスは維持しつつ、知識基盤社会における情報センターとしての図書館、また地域におけるコミュニケーションの中心となる図書館の新しい姿を模索することが求められていると考える。</p>
林委員	<p>広島市においては、図書館に係る行政施策が市民局に置かれていることを踏まえると、教育行政を担う教育委員会の施策との整合性はもちろん、広島市全体の行政施策との整合性がより強く求められるとともに、そのことを強みとして「今後の方向性」を検討することが必要と感じる。広島市の総合施策における市民の幸福の希求についての意見や描いている市民像がありましたら、検討の基盤にできればと思う。また、老朽化した現在の中央図書館の再整備の検討も合わせて、今後の「広島市立図書館サービスのあり方」が検討される必要も強く感じる。</p>
前田委員	<p>図書館サービスのあり方を検討する際に、今後図書館をどのような人に利用してもらいたいかを考えておくべきだと思う。参考資料2のアンケート調査結果（速報）から、時代の変化に変わらず、図書館を利用可能な年代の市民の20～30%強は図書館を積極的に利用することを示していると言える。今後の図書館サービスのあり方を考えるとき、目的を持ち、希望・期待して図書館を利用する人がより利用しやすい、充実したサービスが何かを考えることも1つの考え方と思う。利用者を増やすことを目的として新たなサービスを提供することと利用したい人向けのサービスを充実することに対してそれぞれ用意すべきものが変わり、かかるコストも異なる。図書館に足が向いてない人がカフェスペースやイベント開催などの機能を提供することで続々来館するようになるのではという期待はやや楽観的で、結局コストパフォーマンスの悪い結果を招くことになるかもしれない。市町ごとに事情が異なるが、先行事例などの調査も必要である。市立図書館として広く市民を対象とすることが求められると思うが、本来、図書館は本を読む、資料を提供することが目的で設立されているもので、それを利用したい人が一定数いるのであれば、その人たちが利用しやすい図書館のサービスを提供することに焦点をあてることは結果的に予算的にもメリットがある。図書館が好きな人にとって充実している図書館というのを広島市立図書館のセールスポイントにすることも1つの戦略かもしれない。</p> <p>一方で、やはり利用者を増やすことが必要であれば、カフェサービス、イベント等追加機能を提供しなければならないのは必至。その場合、現在使われている図書館の活動の指標になっている、蔵書数、貸出数、来館者数、開設講座数など量を問うような目標値を掲げ続けていると実態とギャップが生じる。このことはサービスのあり方と並行して考えるべきだと思う。ただ、これは時代の変化に伴わない指標が図書館業界全体の課題で、一つの図書館で変えていくことは難しいことだと思う。</p>